

アセットマネジメントとは？：中長期的な視点で水道事業の『持続』を確保するための資産管理

平成25年に厚生労働省より「新水道ビジョン」が公表され、水道事業の理想像を安全、強靱、持続の3つの観点で整理することになった。
アセットマネジメントは『持続』を確保し、水道運営の基盤強化するための手法のひとつ。

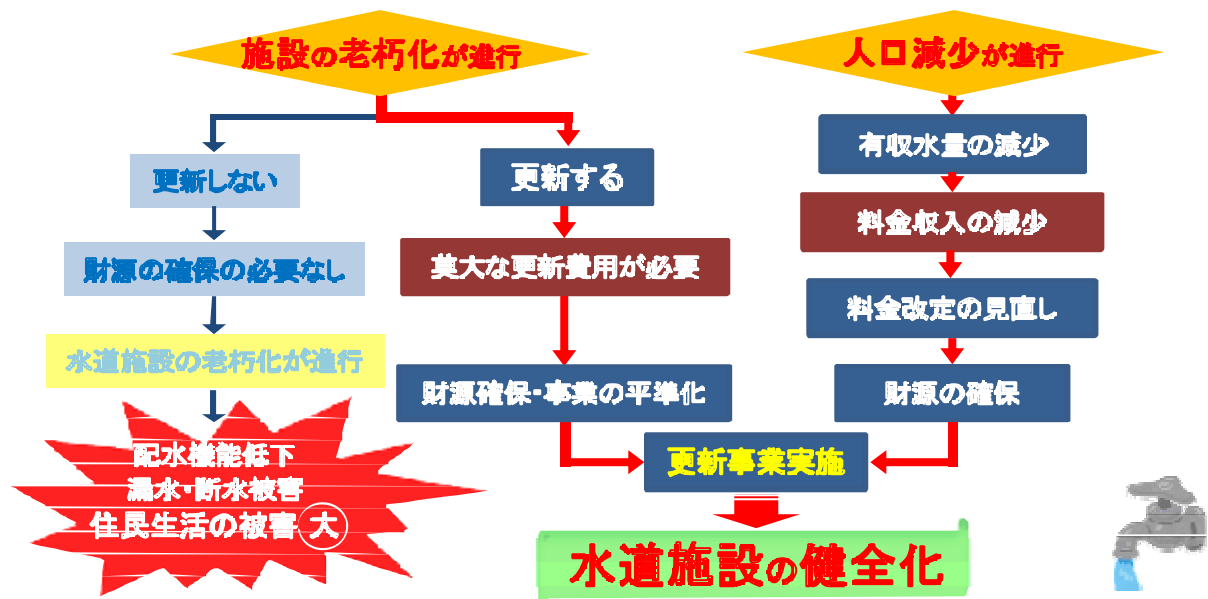
- ライフラインの根幹といえる水道を将来にわたり維持・持続させるために、中長期的な視点に立って施設整備・更新需要の**見通しを把握**し、着実な更新の投資を行う。
- 施設更新には莫大な費用を必要とする。この施設更新の必要性を水道利用者の理解を得るための**情報公開に必要なバックデータ**を作成する。

アセットマネジメントに着手すると？：将来の水道施設の見通しを把握

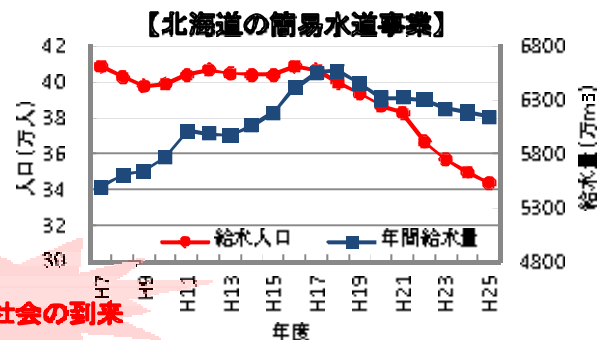
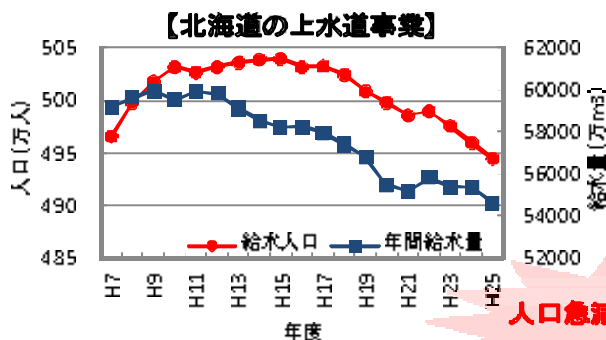
- ・施設老朽化の割合はどうか？
- ・施設の更新費用はどのくらい必要？
- ・将来も同じ給水料金で大丈夫？
- ・将来も今までと同じ規模の施設でいいの？

アセットマネジメント
策定

将来の見通しを把握し
無理のない更新計画
を提案します



現在の水道事情は・・・ 給水人口減少 料金収入減少 施設の老朽化etc 問題が山積み



人口急減社会の到来

お問い合わせ先：東日本設計株式会社 011-641-8600 までお願いいたします。

アセットマネジメントの活用：PDCAサイクルにより水準の向上をめざす

- **第一歩！アセットマネジメントに着手することで、将来の水道事業の見通しが把握できる。**
- **厚生労働省より公表されている『簡易支援ツール』を活用する。**
- **施設老朽化度、財源調達状況の予測を行い将来のリスクコントロールが可能となる。**



但し、PDCAサイクルを用いて定期的に見直し
 目標の明確化、社会情勢に伴う変化に対応
 する高い水準の資産管理が必要です。

アセットマネジメントの実施例：長期的に持続可能な施設を運営管理するために必用不可欠

